

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 のどかな日から出来ること 」

鹿児島県 鹿児島市立川上小学校 4年 加治木 悠翔

「タンタンタンターン、タンタンタンターン。」

今年の7月3日の夜に、お父さんとお母さんのけいたい電話から、大きな音が鳴りました。ぼくの家がある吉野の周りに大雨がふって、土砂さいがいのきけんが高くなったというお知らせでした。ぼくは、その音を聞いてとてもドキドキしました。お父さんに、

「これからどうしたらいいの。」

と聞いたら、

「今は、おうちが一番安全だから、外に出ないようにしようね。」

と、言われました。

次の日、お父さんが「わが家の安心安全ガイドブック」というものを見せてくれました。その本には、鹿児島の地図がのっていて、どんな場所が大雨の時に川の水が来るきけんがあるとか、がけくずれが起るきけんがあるとか分かりやすく書いてある本でした。ぼくは、その本を見て、自分の家の周りは洪水やがけくずれのきけんがないことが分かり、とても安心しました。しかし、学校の周りは、土砂くずれのきけんがあったので登下校のことが心配になりました。すると、

「いつも学校に行く時に周りを見ながら歩いて、雨がひどいときには、がけのそばを通らないようにしましょう。」

と、お父さんがしんけんな顔で言いました。

ぼくは、登下校の際にきけんな所がないか見てみようと思いました。

この本には、大雨などのさいがいが起きたときにあわてないように、大事なチェックがありました。それは、「いのちを守る三つのチェック」というものです。「い」は、今すぐに、自宅の安全をかくにんするという事です。「の」は、のどかな日に、さいがいのそなえをすること、「ち」は、ちゅうちよなくせまるきけんに速ひなんをすることでした。

ぼくは、その三つの言葉を聞いて、「のどかな日に、さいがいのそなえを」という言葉が心に残りました。なぜかという、けい帯電話の大きな音がなったとき、自分がどうすればよいか分からなかったからです。

さいがいはいつ起るか分かりません。大雨がふったときや土砂くずれが起きたときに、どこにひなんをすればよいか分からなかったら、自分の命を落とすかもしれません。

ぼくの住む鹿児島は、よく台風くる所で、梅雨の時期は毎年のように大雨がふります。「いのちを守る三つのチェック」に書いてあるように、のどかな日こそさいがいのことを考えて、大雨がふった時に落ち着いて行動できるようにしたいです。そして、自分だけでなく、家族や近所の人にも、ひなん場所などを教えてあげて、みんなの命を守っていけるようにしたいと思います。